PRESS RELEASE

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学記者クラブ
文部科学記者会
科学記者会　　御中

令和 6 年 12 月 5 日
岡　山　大　学

乳児期のケガは小学校入学前までのケガの再発につながる！
～家庭内での事故予防の再確認を～

◆発表のポイント

・「21 世紀出生児縦断調査」（厚生労働省）のデータベースを使用し、7 歳までのケガによる病院受診の有無について、1 歳半までのケガの受傷歴の有無で比較しました。

・約 8 割の家庭で乳児期に何らかのケガを経験しており、乳児期にケガの経験がある子どもの場合、7 歳に至るまでに再度ケガを負いやすいということが明らかになりました。

子どものケガは家庭においても社会的にも取り組むべき非常に重要な課題です。乳幼児期では、ケガの多くが家庭内で発生しており、適切な予防策が講じられない場合には、再度、ケガを繰り返す可能性があります。

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）救命救急・災害医学講座の平岡知浩大学院生、小原隆史助教、中尾篤典教授のグループは、疫学・衛生学分野の松本尚美助教、頼藤貴志教授らとの共同研究において、「21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）」（厚生労働省）のデータベースを縦断的に解析し、1 歳半までのケガの受傷歴と 7 歳までのケガによる病院受診の有無の関連性について検討しました。その結果、本邦では約 8 割の家庭で乳児期に何らかのケガを経験しており、乳児期にケガの経験があるとその後のケガの再発リスクが 1.5 倍になることが分かりました。さらに、転落、挟まれ、溺水、誤飲、熱傷によるケガは、独立した再発リスクであることが示されました。

今回の結果は、家庭内でのケガ予防策を見直す必要性を示唆するとともに、医療機関や母子保健行政による啓発や介入の一助となることが期待されます。この研究成果は、10 月 21 日ドイツ Springer Nature 社の『*Scientific Reports*』に掲載されました。

◆研究者からのひとこと

日々の生活の中、病院を受診するのは子ども自身も家族も大変ですよね。今回の研究が、乳幼児のケガを減らす対策に繋がっていくことを願っています。

平岡大学院生

小原助教

■発表内容

＜現状＞

乳児～未就学児は家庭内でケガをすることが多く、転倒や切り傷が一般的ですが、熱傷、窒息、溺水など致命的なものもあります。生活環境における潜在的な危険は持続する可能性があり、再発防止は重要な課題です。これまでの研究では単一のケガのみに焦点が絞られており、介入時期が不明確であるなど、この年齢層におけるケガの再発に関する包括的な研究は不十分でした。

＜研究成果の内容＞

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）救命救急・災害医学講座の平岡知浩大学院生、小原隆史助教、同中尾篤典教授のグループは、疫学・衛生学分野の松本尚美助教、頼藤貴志教授らとの共同研究において「21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）」（厚生労働省）のデータベースを用い、平成 22 年の特定の時期に本邦で出生したすべての児を対象に縦断的に解析しました。20,191 人の対象者のうち、16,239 人（80.4%）が 1 歳半までにケガを経験しており、乳児期にケガを経験した児では、そうでない児と比べて発達特性に関係なく、前学童期（7 歳まで）のケガの再発リスクが有意に高い結果となりました（オッズ比 1.48）。ケガの種別で比較すると、転落（オッズ比 1.34）、挟まれ（オッズ比 1.22）、溺水（オッズ比 1.29）、誤飲（オッズ比 1.35）、熱傷（オッズ比 1.47）は再発の独立したリスクであることが分かりました。

＜社会的な意義＞

家庭内でのケガ予防策を見直す必要性を示唆するとともに、将来的には、1 歳半検診に関連して医療機関や母子保健行政による啓発や介入の一助となることが期待されます。

■論文情報

論 文 名：A nationwide longitudinal survey of infantile injury and its recurrence in Japan

掲 載 紙：*Scientific Reports*

著　　者：Tomohiro Hiraoka, Takafumi Obara, Naomi Matsumoto, Kohei Tsukahara, Takashi Hongo, Tsuyoshi Nojima, Masaki Hisamura, Tetsuya Yumoto, Atsunori Nakao, Takashi Yorifuji, Hiromichi Naito

D O I：10.1038/s41598-024-76403-z

U R L：https://www.nature.com/articles/s41598-024-76403-z

■補足・用語説明

「21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）」

厚生労働省が実施している同一客体を長年にわたって追跡する縦断調査であり、平成 22 年 5 月 10 日から同月 24 日の間に出生した子を対象に毎年調査票が郵送される。実態及び経年変化の状況を継続的に観察するとともに、21 世紀の初年である平成 13 年に出生した子を継続的に観察している調査との比較対照等を行うことで、少子化対策等の施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的としている。

＜お問い合わせ＞
岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）
救命救急・災害医学講座
助教　小原　隆史
（電話番号）086-235-7427

岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。